

## 1 事業名 ボランティア活動入門セミナー

### 2 必要性

「青少年の奉仕活動・体験活動の推進方策等について」（中央教育審議会答申・平成14年7月29日）を踏まえ、青少年がボランティア精神を育み、生涯を通じて様々な場面でボランティアとして活躍できる人材を育成する必要性は従来から指摘されている。多くの青少年が、ボランティア活動を通して、社会にとって有用な人材として活躍するための支援をすることは、青少年教育施設の使命である。

また、ボランティア活動に参加する青少年の活躍の機会を広げ、あらゆる活動の中でリーダーシップを発揮しながら活躍できる青少年を育成する事業は、社会からの要請があるところである。本事業は国立青少年教育施設が有する機能を最大限に活かし、青少年にボランティア活動に関する学習の機会を提供するものであり、主体的に社会に参画しようとする態度を養成するものである。

### 3 趣旨

ボランティア活動を始めようとする青少年に、ボランティアについての学びの場を提供することで、ボランティア精神を育むとともに、社会の様々な場面で主体的に活動することのできる人格の形成に資する。

### 4 後援

島根大学、島根県立大学

### 5 期日

平成25年5月10日（金）～5月12日（日）

### 6 参加者

- (1) 募集対象・人数 ボランティア活動に興味関心のある大学生・青少年 30名
- (2) 参加人数 72名（左記以外にボランティアスタッフ17名の参加）
- (3) 参加者分析 大学生・青少年30名の募集に対して、定員を大幅に超える72名の参加があった。その内訳は、下表のとおりである。参加者の本事業への参加のきっかけは、各大学で実施した説明会での説明を聞いて興味を持ったことが大半であり、「友人・知人に誘われて」参加した参加者も多かった。

所属	人数	合計
島根大学教育学部	49名	72名
島根県立大学短期大学部（出雲キャンパス）	21名	
島根県立大学短期大学部（浜田キャンパス）	2名	

- (4) 参加地域 島根県71名 鳥取県1名

### 7 講師等

出川 徹 氏（出雲市消防本部警防課）他出雲消防職員3名

## 8 参加経費 3,400 円

## 9 事業の内容

### (1) 事業の特色

本事業は、ボランティア養成の入門編に位置づけ、人間関係能力・コミュニケーション能力などのソフトスキルや野外炊飯の安全管理や指導法等のハードスキルなど、ボランティア活動を実施する際に求められる基礎基本となる事項を学ぶ機会を提供するものである。また、国立青少年教育振興機構の法人ボランティア養成共通カリキュラムとして実施し、今後当施設でボランティア活動を希望する者に対して、法人ボランティア登録の機会を提供するものである。さらに、現在登録している法人ボランティアに事業運営の補助を担ってもらうことで活躍の場を提供し、ボランティア活動に携わる技術や意識の向上を図る。プログラム構成については、8月及び1月に実施する教育事業「小学生チャレンジキャンプ」や10月に実施する教育事業「さんべ祭」および2月に実施する教育事業「さんべミニ冬まつり」の企画・運営や、その他の教育事業の運営補助などの活動に繋がるよう工夫した。

### (2) プログラムデザインと企画のポイント

今回のプログラム構成のねらいとして、①ボランティア概念の基礎基本の学習、②今後の活動の基本となるボランティアネットワークの形成、③具体的な活動プログラムに関する知識・技術の獲得の3つを位置づけた。参加者が72名と多い中、より効果的に学びを深めることができるようにグループ単位での活動を多く設定し、各グループに先輩ボランティアを1名ずつ配置した。また、先輩ボランティアの指導する機会を多く設定することで、参加者に当施設でのボランティア活動をイメージしてもらえるようにした。さらに、参加者に対する指導は、先輩ボランティアにとっても、個人のスキルアップにつながる機会であると考え、参加者、ボランティアスタッフの双方に学びがあるプログラムとした。

平成25年4月に実施した「ボランティア集会Ⅰ」の際に、先輩ボランティアから「三瓶の良さやボランティア活動の楽しさを参加者のみんなに伝えたい!」、「参加者同士をつなげ、参加者をつながることのできるプログラムにしたい!」という意見が挙がり、プログラムの一部を先輩ボランティアに委ね、企画・運営してもらった。

平成24年度にも同様の事業を実施しており、プログラムの流れや時間配分などスムーズに実施できたため、今年度も同様のプログラム構成で実施した。

1日目・2日目は、体験を通して学び、最終日に「青少年教育の理解」「ボランティア活動の意義」などの概論を学ぶことで、2日間の活動をふりかえりながらボランティア活動の概要を学べるように意識した。

### (3) 広報のポイント

島根県内の大学が実施するボランティア活動等に関する説明会に出向き、事業への参加を促した。また、島根県内および広島県内の大学・専門学校に開催要項を配付し、設置してもらった。説明会では当施設職員の他に先輩ボランティアにも参加してもらうことで、説明会に参加した学生は直接具体的な話を聞くことができたと考えられる。さらに、今後のボランティア活動に計画的に参加できるように、当施設が募集する年間のボランティア活動を記載したチラシを作成し、配付したことが参加者が増加した要因であったと考えられる。

(4) 日程表

5 / 1 0 (金)	20:00		20:30		21:00		22:00		23:00							
		受付	オープニング		青少年教育施設の現状と課題 「交流の家ってどんなところ？」 「心と心をつなぐアイズブレク」		入浴	就寝								
5 / 1 1 (土)	6:30		9:00		12:00		14:00		17:00		19:30		21:00		23:00	
	起床 つどい 朝食	救命救急法 「野外で大切な 人を守るために」		昼食	プログラム体験① 「竹を使った パウダーハン作り」		つどい 入浴 夕食	プログラム体験② 「火をともし キャンドル体験」		交流	就寝					
5 / 1 2 (日)	6:30		9:00		12:00		13:00		16:00							
	起床 つどい 朝食	青少年教育の理解 ボランティア活動の意義		昼食	青少年教育施設におけるボランティア活動の理解 「さんボラ体験記」「ふりかえり」 クローゼット		解散									

(5) 内容及び講師

① 講義・演習「青少年教育の理解」

国立三瓶青少年交流の家 藤江 龍

・中央教育審議会答申や国立青少年教育振興機構が実施した各種調査研究の報告を基に、青少年の生活習慣の乱れや体験活動の必要性について説明した。

② 講義・演習「ボランティア活動の意義」

国立三瓶青少年交流の家 藤江 龍

・ブレインストーミング法や様々なワークショップ（二人の家、漢字探しなど）を用いて、グループごとに「ボランティア活動とは？」について考え、全体でその考えを共有した。



講義「ボランティア活動とは？」



参加者全員で記念撮影

③ 講義・実習「青少年教育施設の現状と運営」

国立三瓶青少年交流の家 藤江 龍

・当施設で実施している、スライドを用いたオリエンテーションの実施や朝夕のつどいへ参加することで、青少年教育施設の役割・運営について説明を行った。



朝のつどいで司会を担当！



朝のつどいでスピーチを担当！



「交流の家ってどんなところ？」

④演習「青少年教育施設におけるボランティア活動の理解」 国立三瓶青少年交流の家 藤江 龍

- ・当施設の実施する教育事業について先輩ボランティアの体験をもとにした劇を披露したり、活動毎に別れて体験談を話したりすることで説明を行った。
- ・国立青少年教育振興機構の法人ボランティア制度について、登録の流れや手続き、待遇等の説明を行った。

⑤活動スキル実習「救命救急法」

出雲市消防本部 出川 徹 氏

- ・人体模型を用いて、AEDの使用も含む心肺蘇生法を4つのグループに分かれて実施した。



講義「大切な人を守るために」



救命救急法「心肺蘇生法の実践」



救命救急法「AEDを用いた応急手当」

⑥活動スキル実習「野外炊飯」

国立三瓶青少年交流の家 渡邊 絵里子

- ・安全管理や環境問題を意識しながら、当施設で提供している活動プログラム「バウムクーヘン作り」を8つのグループに分かれて実施した。



バウムクーヘン手順説明



プログラム体験「バウムクーヘン作り」



バウムクーヘン完成！

⑦活動スキル実習「キャンドルのつどい」

国立三瓶青少年交流の家 藤江 龍

- ・先輩ボランティアが企画した活動やレクリエーションゲームを実施した。



先輩ボラ企画「2枚の写真」



先輩ボラ企画「進化じゃんけん」



プログラム体験「キャンドルのつどい」

## (6) 運営のポイント

参加者が多く、一人ひとりのねらい（目標）を全体で共有し、ふりかえりをする時間が十分に確保できないことが予想されたため、ねらいなどを一人ひとりが画用紙に記入し、掲示することで他の参加者や先輩ボランティアの思いを共有できるようにした。

事業全体を通して参加者同士や参加者と先輩ボランティアとの関わりを重視し、生活面については先輩ボランティアが指示、指導するようにした。グループ編成の際は、できる限り他の大学や初対面の者同士が同一グループになるように配慮し、グループ毎に先輩ボランティアを配置するなど、コミュニケーションが図れるように配慮した。また、この他にも運営全体の補助をしてもらう先輩ボランティアも配置し、全体で指示や指導する場面を多く設定した。職員は参加者の安全管理、健康管理に努めた。

## (7) 安全管理のポイント

所外での活動については、事前に活動場所の踏査を行い、安全確認を行った。また、野外炊飯の活動では刃物や火気の使用には十分に注意を払いながら指導した。さらに参加者に対して朝夕のつどいで健康状態の確認を行った。

## (8) アンケートの満足度・主な記述

満足度（参加者 72 名中） 満足 62 名（86.1%） やや満足 10 名（13.8%）

- ・ 充実した時間を過ごせた
- ・ 楽しく勉強になるプログラムだった
- ・ 先輩ボランティアや職員の方々への感謝でいっぱいである
- ・ 先輩ボランティアが 2 泊 3 日のために長い間準備してくれたことを知り、とてもうれしく格好良く見えた
- ・ ボランティアについて深く考える良い機会になった
- ・ 次は自分が企画する側で参加したいと思った
- ・ 想像以上に面白かった、職員の方や先輩ボランティアの人柄の良さに感動した

## 10 成果と今後の課題

<成果>

- 募集人数を大きく上回る 72 名の参加者全員が法人ボランティア登録をした。
- 今回は島根県立大学出雲キャンパスから 21 名、浜田キャンパスから 2 名の参加者があり、平成 24 年度に引き続き 2 大学 3 キャンパスの学生が中心となり、連携しながら活動に参画してもらえることが期待できる。
- 参加者に実施したアンケートによると、「ボランティアについて深く考える良い機会になった」や「次は自分が企画する側で参加したいと思った」などの前向きな意見が数多くあり、今回の事業はボランティア活動についてのイメージをもたせ、これについて改めて考えるきっかけを提供できた。
- 本事業の 1 コマを先輩ボランティアが企画・運営した。約 1 ヶ月かけて企画し、大学において話し合いを進めてきたことで、この経験が先輩ボランティアに対しても学びの機会の提供となった。

#### <課題>

- 募集人数 30 名に対して倍近くとなる 72 名の参加申込みがあった。本事業は参加者からの需要が大きいものであり、これ以上参加者枠を増やすことが難しいため、平成 26 年度以降は二度に分けての実施を計画している。ただし、その際の運営方法や先輩ボランティアの確保など、多くの課題が考えられる。
- 平成 24 年度に引き続いて本事業への参加者が多かったことから、昨年度から継続して法人ボランティア登録している者も含めると登録者数が大幅に増加した。このため、今後法人ボランティアが当施設で実施するボランティア活動に継続的且つ積極的に参加できるよう、活動機会の新規設定やボランティア募集方法の改善を行う必要がある。
- 本事業へ県内の大学のうち、2 大学 3 キャンパスからの参加があった。平成 26 年度以降はこれに加えて、他のキャンパスや各専門学校などへも広報をすることで、さらに当施設におけるボランティア活動を促進していく必要がある。
- 複数の大学（キャンパス）の学生が法人ボランティア登録をしている状況に対して、当施設職員が仲介役となり、ボランティア同士のネットワークを整備する必要がある。

#### 11 普及計画・普及実績

ホームページ上に要項や事業の様子などを掲載することで事業内容を社会に広く周知することができた。

(担当 藤江 龍)